

この報告は、2008 NTT データの調査報告から 60 歳以上の高齢者の方々が、パソコン・インターネットへの関わり方をまとめたものです。

パソコン、インターネットをはじめとした IT は、私たちの生活に欠かせないものになっていますが、この調査によれば、60 歳以上の高齢者の方々においても、パソコン所有率の高まりと同時に、利用についても毎日の生活において必需品として定着していることが判明しています。下記、6項目の結果からインターネットによる情報の提供者は、ますます、WEB バリアフリーを意識した取り組みが不可欠であり、障がい者への取り組みも必要と考えられます。

1. コンピュータ・リテラシーレベルは、60 歳以上とその他の年代別と比較したとき、大きな差異は、ない

* コンピュータ・リテラシー = コンピュータの機能や仕組みを理解し、それを使いこなす能力。主に代表的なアプリケーションの操作、インストール等のこと

2. パソコンは、毎日の生活において必需品として定着

3. 趣味や生活などの情報検索や資産運用にインターネットを積極活用

4. 公的機関におけるインターネットサービスの利用については、関心が高い

「省庁の行政情報検索」、「e-Tax / eLTAX(税金の電子申告・納付)」、「図書館の利用申請」等の利用頻度が高い。

今後の利用については、「パスポートの申請」、「許認可の申請」、「地方自治体への申請」、「医療サービス」、「公的施設の利用申請」、「住基ネット」等の要望が高い。

このことは、自宅のインターネットで手軽にできるようになるとすれば、高齢者においてより身近なサービスとして拡大する可能性がある。

5. パソコンの利用時のセキュリティ対策実施動向

60 歳以上・未満において 65.5%と 76.2%が「ウイルスチェックソフトの導入」

高齢者においては、パソコン上の設定やインストール等の手間がかからず手軽にできる対策として「不審なメールは開かない」や「有害サイトなどの閲覧制限」、「プロバイダがオプションで用意するウイルスチェックサービス」等を取り入れている傾向が窺える

6. パソコンの利用時のユーザー補助機能の使用

高齢者において 48.6%と半数近くの割合で「文字サイズを大きくする」機能を使用する

高齢者からタッチパネル式入力や音声入力、点字入出力、音声読み上げ機能等の補助機能をより使用したい

このことは、高齢者にとって見やすさや入力しやすさといった使いやすさに対するニーズが高いことが窺える。

平成 22 年 10 月 18 日

大脇 秀雄